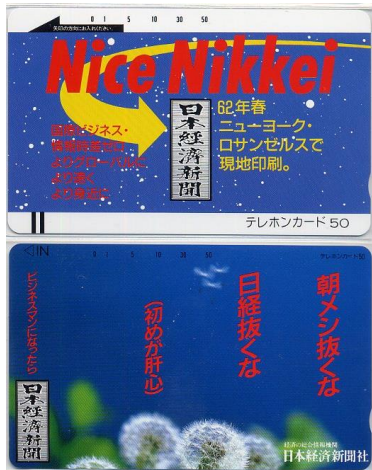


# テレカコレクション

〈第22回 新聞編〉

健

集めたテレカを眺めてみると新聞といってもいろいろある。まず一般紙、地方新聞、スポーツ新聞、夕刊紙、はたまたレジャー・趣味系の「つりニュース」「週刊碁」「将棋ウイークリー」「勝馬」等々。さらには業界新聞ときたらあらゆる業界で発



行されておりこんなのまであるのかと感心してしまう。ビジネスマン（女性も含めてだが）向けに発行されているのが「日本経済新聞」だ。会社にも置いてあるが金融関係・商事会社にも勤めていないとなかなか読む気にはなれない。ご親切に会社に関係する記事の切り抜きをコピーしたものが回覧されてきたりするが見出しをさっと眺めて次に回してしまう。電車の網棚の新聞を手にとって読まずに返されてしまうのも「日経」ならではの光景だ。

仕方なく読み始める者もいるが始末に困っているのが見え見えだ。

そういう訳で最近女性が頑張っているなあと思うのが電車で日経を読んでいる女性が結構眼に付くことだ。勤務地が東京方面やら海浜幕張などビジネスタウンだからだろうが男が少年ジャンプやらスポーツ新聞を読んでいる

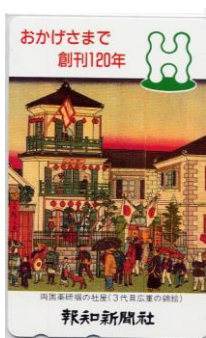


のとは大違いだ。自分も人のことは言えないが新聞に眼を通す暇はあまりない。夜型人間なので朝はギリギリまで寝ており読む時間が取れない。通勤の電車の中は混んでいるのでまづら文庫本を読むかスポーツ新聞を小さくたたみながら読んでいる。そういえばかつて、女性は新聞をあまり読まないと思われており女性向の新聞なんていうのも発行されたが売行きはかんばしくなく短期間で廃刊となってしまった。（掲載テレカ参照）





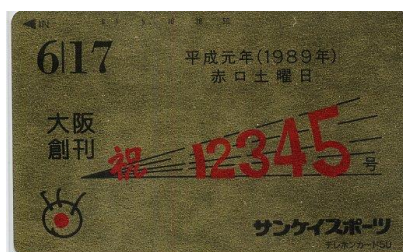
朝のTVで重宝するのが新聞解説だ。その日の朝刊を並べて一面記事、トピック



を一挙に紹介するのは今では普通だがこれを最初にはじめてのが「やじうまワイド」だったと思う。当時は小西克也というアナウンサーが司会。ぼくらは親しみをもって「小西さん」と呼んでいた。このコーナー、役に立つと思えばその時間だけはチャンネルを合わせ、これをみてから出勤するのが習慣だった。「小西さん」は後に深夜番組の司会に欠かせない存在となり「週刊地球TV」なども良く見た。最近はおぼさたと思っていたらうんちく王の選手として出演し健在なところを見せていた。



スポーツ新聞はよく読むがどの新聞も記事の内容・分量はさほど変わらない。但し、野球についてはそれぞれ系列があり巨人なら報知、阪神-ディーリー、ヤクルト-サンケイ、中日-東京中日スポーツ。日刊スポーツは割合平等、報道姿勢が真面目で紙面がすっきりしているので好きな新聞だ。小ネタだがちばてつやの漫画「のたり松太郎」の松太郎が作品の中で読んでいるのも日刊スポーツだ。自分は巨人ファンではあるが報知のような記事は嫌いだ。巨人は好きでも巨人ファンは嫌いといったところか。



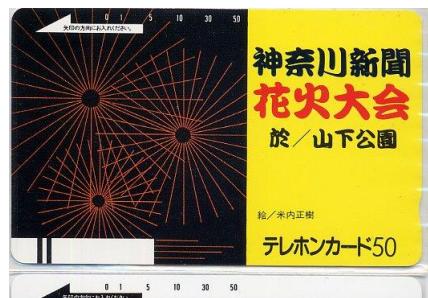


Cacco氏は阪神ファンで阪神ファンの仲間意識も好きというところがあってついていけん。



によって売上がかなり違うのだそう。

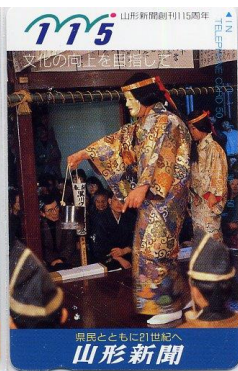
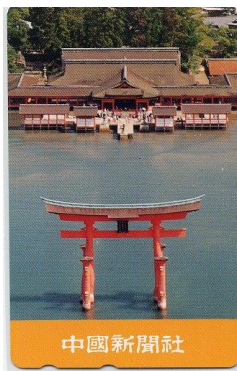
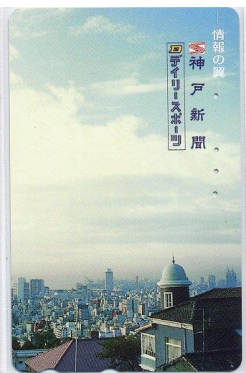
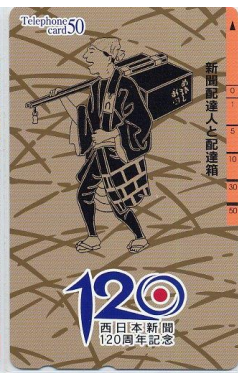
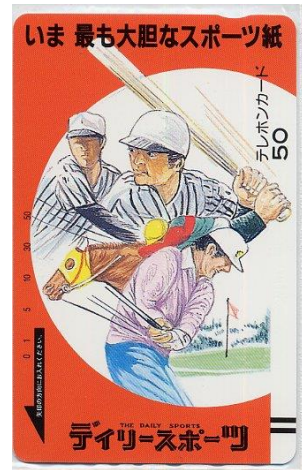
高校生の頃、関心を持っていたのが「神奈川新聞」という地方紙だ。



夕刊では「東京スポーツ」がある。この新聞地域によって九州スポーツ、東海スポーツ、大阪スポーツと名前を変える。売りはプロレス記事なのだがもう一つの売りがガセネタと、錯覚と興味を誘う見出しだ。とにかく思いついたら記事にしてしまい、読むほうもガセを楽しんでしまう稀有な新聞だ。

「デーブスペクターは埼玉県人だった」とか「人面魚」、衝撃の見出しに小さく疑問符などそのガセぶりを書いた「東スポ伝説」(扶桑社刊)なんて本も書かれている。

電車で見かけた光景。3人連れのサラリーマンが乗ってきて向かいに坐るやいなやいっせいに広げたのが3人もとも東スポだった。どういう付き合いをしているんだと思ったものだ。たまに買うのがタ刊フジやゲンダイ。見出しに松井の文字が入っているとつい手を出してしまう。日本人選手の活躍に元気をもらっているサラリーマンは結構多いらしく事実、成績



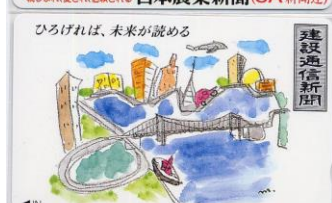


記事というより県内のスポーツ大会の成績が予選から細かく載っていたのでクラブ活動をしている生徒には特に注目されていた。自分も横浜市の大会で器械体操の鉄棒で2位に入り新聞を見た友人から声をかけられた時は嬉しかったものだ。載った日の日付は今でも覚えている。しかしその時の表彰状は手元に無い。機会があったら新聞のコピーサービスで印刷してもらおうかなどと考えているが地方紙なのであるかどうかはわからない。



ところで新聞は2紙を読むべきというのはよく聞く話だが新聞に載ったこと、必ずしも正しいとは限らないという事だ。印刷されたもの、本もしかり。その新聞の特徴を把握し自分で真偽を判断できる物差しが必要ということだろう。

最近、某S紙がA紙の社説を名指して批評しているのが注目されているが足の引っ張り合いにならなければこれも一興といったところか。



新聞の報道というのは起こったことをタイムリーにというのが使命でもあるので長期にわたる世界情勢の絡むものなどは途中から読むものにはわかりにくい。その点、スポーツ新聞はニュース性のあるものについては一面に政治やら事件がとりあげられることもある。社会面も一般紙などよりわかりやすく図版が載っていたりして侮れないこともあり。小難しい理屈や主張がないのも長所のような気がする。

